

2021年9月21日

食のコミュニケーション円卓会議主催

第133回（10月）Zoom オンライン学習会のご案内

日時： 10月20日(水) 19:00～20:30

テーマ：「わずかな放射線で本当にがんが増えるのか？」

講師：QST 高崎研 放射線生物応用研究部 小林泰彦氏

外部からのご参加歓迎します。(参加費千円)

内容：

- ・ 放射線の生物影響に関する科学的知見のコンセンサス
- ・ 閾値なし直線モデルの問題点：科学的根拠と社会的影響
- ・ LNT モデルに代わる新しい数理モデルへの期待と放射線発がんに関する大胆な仮説の紹介

<お話の概要>

現在の放射線防護の考え方では、放射線による発がんなどの確率的影響には「しきい値はない」と仮定し、原爆被爆者の疫学調査などで影響が観察できた高線量域から、実際には観察が不可能な低線量域まで、原点を通る直線を引いてリスクを推定します。しかしこの「しきい値なし直線 (LNT)」モデルは科学的な真実として合意されたものではありません。リスク推定の妥当性に疑問があるにも拘らず、放射線作業員などの生涯の放射線リスクを管理するための現実的・実用的な管理技術としてやむを得ず使われているのが現状です。どんなにわずかな放射線でも悪影響があるとする LNT モデルがもたらす過大な不安は以前から医療現場での悩みの種でしたが、福島原発事故後は更に猛威を振るって社会的合意を困難にしています。そこで、LNT モデルからの脱却を目指す新しい「もぐら叩きモデル」と、そもそも放射線による発がんは本当に遺伝子の変異が原因なのか？という大胆かつ根本的な仮説を平易に解説します。

参考資料（オープンアクセス）：

低線量リスクに関するコンセンサスと課題（放射線生物研究特別号，2020年6月）

<http://rbrc.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=33566>

放射線の生体影響を理解するための数理モデルの重要性 もぐらたたきモデルとその後の進展

(RADIOISOTOPES, 69(7), 243-252, 2020)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/radioisotopes/69/7/69_690702/_article/-char/ja/

※開始 10 分前になりましたら、招待 URL をクリックして入室願います。